



～ 「人権週間」の取組から ～

学 校 長

12月10日の人権デーを最終日とする1週間は「人権週間」です。

本年度、高学年の児童会活動に「人権委員会」が発足され、そのテーマは「学校にいる人全員が幸せになれるような取組を考えよう」だと知りました。

委員長の児童は、「自分が言われていやなことは人にはやらない（悪口やけんか）困っている人がいたら助ける。」というはっきりとした自分の目標をもち、他の児童もそれぞれのめあてや目標をもって真剣に取り組んでいました。

活動の様子を見に行くと、子どもたちなりに考えた「相手に伝わるコミュニケーションのあり方」を動画で分かりやすく説明しようと熱心な話し合いを重ねていました。

「こんな態度は、無視をされているように感じてしまうよ!」「こんな話し方や挨拶をされると嬉しいな!」演じる子どもも、動画編集の子どもも、実際の場面を想起しながら真剣に取り組んでいました。

子どもたちが、健やかに幸せに成長していくためには、私たち大人が子どもたちに、思いやりの気持ちや協力することの大切さを教え、育てていくことが重要です。

加えて、子ども自らが、自分自身を振り返り、自分の感情や行動を調整しながら人とコミュニケーションをとることができるようになることが必要です。

私たち大人には、安全な環境を提供し、愛情を注ぎ、安心して自己表現や探求心を育てていくことができるように子どもたちを支えていくことが求められます。

健康な心と体で、友情や家族との絆を深め、学びや遊び、社会的なつながりが調和しているからこそ、子どもたちの自己有用感、高まり、喜びを感じ、人への感謝の気持ちをもつことができるようになるのでしょう。そのように育った子どもたちは、「バランスがとれている人」「ストレスを上手に処理して自分や他の人への理解を深めている人」「成長や学びを大切にしながら前向きな気持ちで未来に向かって進んでいる人」へと成長し、さらに広い世界に向けての視野をもつ大人へと成長していくのだと思います。

学校の役割は様々です。

子どもたちが共に遊んだり、一緒に勉強したりすることも、もちろん、大切なことですが、それ以上に、子どもたちの社会的な発達や感情の育成に焦点を当てていくべき時代であることを実感します。

保護者には、子どもたちに愛情を注ぎながらしっかりサポートし、子どもたちの個々の興味や才能を尊重しながら、健康な生活習慣を教える役割があります。

そして、地域には、安全で支え合いのあるコミュニティを作りあげ、子どもたちに豊かな経験と多様な刺激を提供することが求められます。

だからこそ、三者が協力し合って、子どもたちのバランスの取れた発達を促進することができるのです。

